

東日本大震災への支援

東日本大震災に於ける緊急医療チーム（内閣府）からの要請により医療品の他、直ちに必要とする感染対策用、除菌水「オレア・アスファ」をできる限り災害地に持ち込みたい旨の要請がありました。当社としても緊急のことでしたが、できる限りの協力をすることを了承し、全力を挙げて生産し提供いたしました。



平成23年6月吉日

株式会社オレア
代表取締役社長 樋田日出丸 様

謹啓 梅雨の候、貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
東日本大震災により被災された方々に、謹んでお見舞い申し上げます。
この度は、当財団の被災地支援に係るご協力の呼び掛けに迅速に心よく応じて頂き、深く御礼申し上げます。皆様からご提供頂きました物資は、被災者へ直接お届きご活用頂いたり、あるいはボランティア活動の現場で活用させて頂くなど、どの物資も一つも無駄にすることなく有効に使用させて頂いており、被災された方々にとって大きな力とを賜るものとなりました。
当財団では、今後も引き続き後援員一同最大限の力を発揮するとともに、パートナーであるNPO法人、ボランティア団体との連携を一層高め、復興に向けた支援に取り組んで参る所存ですので、引き続き私どもの活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
本来であれば拝見の上御礼申し上げるべきところではございますが、まずは書中にて失礼いたします。貴台の益々のご健勝並びにご事業の一段のご発展をお祈り申し上げます。

謹言

公益財団法人 日本財団
代表取締役 三浦 一郎

【機密性の情報】

(某)

日本赤十字社による消毒剤の配布について

- 4月21日以降、政府による物資の調達・搬送は終了しており、原則として県が物資の調達・搬送を行うこととなっている（政府は、県から支援要請があった場合のみ対応する）。
- したがって、政府として支援物資を受け取り、又は搬送することは実際のところ難しい。また、個別の支援物資の申出について、自治体にニーズを照会することはない（申出者において、直接自治体に照会してもらうこととしている）。
- 日本赤十字社は、既に様々な物資を調達・搬送しており、自ら対応することは十分可能であると考えられる。
＜被災者再建支援チーム 志賀85460＞…山下哲夫

被災者再建支援チーム 志賀85460 山下哲夫

副社長 大塚 義治	日本赤十字社	厚生労働省 大臣官房庶務課長 唐澤 剛	内閣府 大臣官房庶務課課長 山田 哲範
事務局長 山口 繁	日本財団 代表取締役 三浦 一郎		

金 第 118 号
平成23年7月28日

各位

大船渡市長 戸田 公明

東日本大震災に伴うご支援への御礼について
時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、去る5月11日に発生した東日本大震災により、本市におきましても、かつて経験したことのない未曾有の被害を受け、多くの尊い市民の生命と財産が奪われました。
このような中、全国各地からさまざまな形のご支援をいただき、誠に感謝に堪えません。絶望の淵に立った市民に、生きる力と、再び立ち上がる勇気を与えていただきました。皆様の心温まるご厚情に対し、市民を代表して心から御礼申し上げます。
あの震災から、早4ヶ月が経過し、水道や電気、通信網等のライフラインも一部の地域を除き復旧するとともに、がれきの撤去が順調に進み、また、仮設住宅への入居も終盤を迎えるなか、加えて、市内事業所の中には仮設店舗で業務を再開する動きも見られ、着実に、復旧から復興へと歩みを進めております。
現在、本市では、大震災からの早期復興と市民が安心して生き生きと暮らすことができる新たな大船渡市を創るため、市民の皆様とともに復興計画の策定に邁進しております。
復興への道りは遠く険しいものと存じておりますが、本市は、過去において、明治三陸大津波（1896年）、昭和三陸地震津波（1933年）、チリ地震津波（1960年）など、幾多の大津波により甚大な被害を受けながらも、不撓不屈の精神で、危機を乗り越えてきました。
今回の大震災による被害は、想像を絶するほど甚大なものでありますが、皆様のご支援を励みに、1日も早い復旧・復興に向け、必ずや皆様のご支援に応えられるよう、市民一丸となって取り組んでいく決意でありますので、変わらぬご支援をより多くお願い申し上げます。
結びに、皆様今後ますますのご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。

(13) 2011年(平成23年)6月18日(土曜日)

山形 広域

地域の情報をお寄せください
本社 023(622)5271
天童支社 023(653)2230
上山支社 023(672)5821

避難所に除菌・消臭装置を設置

山形 NPO法人東北エコリサイクルネットワーク研究会(山形市、但馬洋二理事長)は16日、東日本大震災の避難所の市総合スポーツセンターに除菌・消臭水噴霧器4台を設置した一写真。

避難所に少しでも快適に過ごしてもらおうと、公益財団法人日本財団(東京)から資金提供を受けて設置した。この日、同法人のメンバー4人が避難所を訪れ、除菌・消臭水噴霧器に放出する装置をセッティング。避難所に使い方を説明し「とてもうれしい」と喜ばれていた。

2011年(平成23年)6月18日(土曜日)
発行所 山形新聞社
〒990-8520
山形市番町2-10-12
電話 代表023(622)5271
©山形新聞社2011



～緊急医療チーム 医師団 目白大学クリニック 坂田英明医学博士の談話～

感染対策として、最も安全に使用できる除菌水として、避難所内の衛生管理及び被害に遭われた方々の手指洗浄、ウイルス等の防疫対策として使用させていただきました。